



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 フィリピン共和国・レイテ島

期間 2014年9月10日～9月15日

参加メンバー

(上段左から) 影山 龍市(D) 栗山 雅行(V) 菅原 正之(D) 大西 富子(H) 野上 敦史(D)

(中段左から) 藤田 典子(H) 松井 笑(H) 池田 奈々子(P) 倉橋 朋子(H) 今村 ちひろ(D)
岩泉 有美(D) 上崎 秀美(D)

(下段左から) 富田 真仁(D) Mikmik(現地村長) 沢田 宗久(D) 佐藤千咲(現地コーディネータ)

* 歯科医師(D) 歯科衛生士(H) ボランティア(V) 薬剤師(P)



活動内容

9月10日（水曜日）晴れ

関空出発組は7：45に集合しマニラ行に搭乗した。往路はレイテへの乗り継ぎ便がないため、アキノ空港第一ターミナル近郊のマニラエアポートホテルに15：30頃チェックインした。夕食時にミーティングし、明朝の出発時までに、参加者は全員合流した。



9月11日（木曜日）晴れ

7：00にホテル出発し第3ターミナルまで送迎をしてもらう。タクロバン行の飛行機は9：55の予定だが、マニラ市内の道路事情と2週ほど前に第3ターミナルで爆弾騒ぎがあり、警戒が厳しいとのことだったので、早めにホテルを出発した。

14：45タクロバン空港着。空港では現地でのコーディネイトをしていただくNPO Visayas Response Teamの佐藤千咲氏とCity Health of TaclobanのDr.Geongzonから出迎えをうけた。タクロバン行きは3時間近く遅れて出発したため、予定を変更しタクロバン空港から直接、今回の診療所となる『Barangay83, San Jose』に向かった。注) Barangayはフィリピンの最小の行政単位のことです。日本の『村』ととらえていただくとういと思います。カオハガン島も一つのBarangayです。

Barangay83では、村人総出での歓迎を受けた。特に子供たちがおめかしして、JDM参加メンバーのネームプレートを作成して待っていてくれたことには皆感動した。簡単なセレモニーの後、Brgy Captain（村長）のMikmik氏を交えてミーティングを行った。Barangay側としては、Barangay Hall近くのバスケットコートにテントをたてての診療を考えていたが、スクールがあると機材が濡れて故障するため、Barangay Hallを利用することになった。Hall入り口からみて左の部屋を『抜歯』、右の大きい部屋を『スケーリング』『充填治療』にすることとした。Hall正面の駐車場は『投薬部門』とフィリピン歯科医師会（PDA）のDrたちの治療スペースとし、Hall横のテントを『Check up』と待合場所にするようになった。

治療人数は1日300人。Barangay83から100名、近隣のBarangayから200名が既にピックアップされている。3日で計900人の治療を行う予定。PDA側からは10人のDrが参加するが、15：00には帰るとのことであった。15：00終了で300人の治療を行うことは困難なためJDMは延長して診療することとなった。

時間が大きくずれ込んでいたため、機材のセッティングやタクロバン市長への表敬訪問は延期し、沢田、栗山の両名がCity Health of Taclobanに表敬訪問を行うのみとした。

18:00 ころ Hotel Alejandro にチェックイン、ホテル近郊のローカルレストランにて夕食とミーティングを行った。



9月12日（金曜日）晴れのち曇り

7:30 出発し 8:00 に Barangay Hall 着。タクロバン市内の交通事情は劣悪である。排気ガスが充満する中、自動車、バイクの間をトライシクルやペディキャブ、自転車では歩行者までが縫っていく。事故が多発しそうに思うが意外に目撃しなかった。台風からの復興途中のため、建築現場や公共工事が多く見られると共に、ユニセフの仮設テントも見受けられた。

JDM メンバーはすぐに活動の準備を開始。9:00 からのオープニングセレモニーの前にセッティングを終了した。

9:00 からのセレモニーでは、昨年の台風犠牲者への哀悼の儀、City Health of Tacloban, PDA, Barangay83 それぞれの代表の挨拶があり、JDM から沢田代表理事が挨拶をおこなうとともに、フィリピン国歌斉唱が行われた。

9:30 より診療開始。既に受付は大混雑している。治療現場での混乱を減らすため、抜歯患者の手首には『黄』充填患者には『赤』のテープをはり、番号を付与することとなった。Dr たちは抜歯班と充填班に別れ、DH はスケーリング・クリーニング部門、Ph 池田は投薬とチェックアップシートの回収と集計、Dr 沢田、V 栗山は全体の総括を行うこととなった。我々の想定よりも、抜歯希望者とクリーニング・スケーリング希望者が多くチェックアップ時のエラーもあり現場は混乱したが、午前中に110人の診療を行うことが出来た。

12:00 から、Barangay83 住人の邸宅1階で用意していただいた昼食を食べた。午後の診療は予定を繰り上げて13:00 から行った。午後はなれてきたためか、比較的スム

ーズに診療することが出来た。16:00に診療を終了した。この日は227人の治療を行った。

17:00にホテル着。18:30より、佐藤千咲氏を交えて市内のローカルレストランにてミーティングを行い、夕食をとった。ミーティングでは活発な意見がかわされた。最も議題に上ったのは『チェックアップ内容のエラー』と『治療内容の指示と患者の希望が異なっている』ことであった。上記については、明日よりチェックアップに Dr 沢田が参加することで改善していくこととなった。

9月13日（土曜日）雨時々スコール

朝から雨が降り続けている。屋内診療を決めて正解だったことを、皆で話しながら診療所へ向かった。

8:00から活動開始。雨のため患者の数がすくないのでは？と思っていたが、我々が現場に到着したときには、長蛇の列が出来ていた。本活動には JDM 以外にもタクロバン市から60名近くが参加している。タンクロバン市警察職員、Barangay83 自警団が周辺の警備にあたるとともに Barangay83 住人も患者の案内や雑用に従事している。また約75人の昼食費用は台風被害の義援金から負担しているとのことである。今回のボランティア活動に対する地元の期待と熱意をひしひしと感じ、身が引き締まる思いだった。

午前中の診療は問題なく進行したが、昼頃から雨脚が強くなり、昼食から戻ると階段を伝って2階から多量の水が侵入してきた。放置すると、コンプレッサーや変圧器が故障するため機械を椅子の上にあげるとともに。階段横のクリーニング機材を部屋の奥に移した。Barangay Hall の屋根は今年の台風で破損している。V 栗山が様々な廃材を利用して階段に雨水が流れ込まないように工夫してくれたおかげで、機械の故障はなかった。

午後は断続的にスコールになったものの、16:30に診療を終えるまでに前日を超える299人の治療を行うことが出来た。また、夕方、機材からハンドスケーラー1式が見つかった。今回、想定以上にスケーリング希望者が多いにも関わらず、エアスケーラー1台鎌形スケーラーが3本しかなく、手のあいた Dr はエキスカベータでスケーリングを行っていた。当地の歯石は日本とは比較にならないほど堅く、DH たちは腱鞘炎、筋肉痛と戦いながら除石をおこなっていた。他のハンドスケーラーが見つかったおかげで手のあいた Dr も積極的にスケーリングに参加できることとなった。

夕方、タクロバン市長への表敬訪問が予定されていたが、市長が出張から戻っていないため中止となった。

雨のため、ホテル併設のレストランにてミーティングを行い、夕食をとった。



9月14日（日曜日）晴れ

朝食をとるホテルレストランのテレビでは日曜のミサを中継している。診療所に行く途中でも、教会に入る人々を見かけた。

前日の雨のため、昨日受付しただけで治療しないで帰った患者が来院すると思われる。診療所では、前日を超える数の来院者が既に長蛇の列を作っていた。正確かつスムーズに行うため、Dr 上崎もチェックアップに参加した。

午前中は12:20まで治療を行ったが、充填班は30人ほど未治療のまま昼休みに入ることとなった。昼食もそこそこに13:00から午後の診療を再開した。後片付けがあるため、16:00に終了したが全員の努力がみのり、350人の治療を行うことが出来た。機器の作動チェック、在庫管理を行いながらパッキングを行った。

17:00より、昼食会場にてクロージングセレモニーが開催された。会場には軽食が用意されリラックスしたムードの中、各代表の挨拶が行われた。沢田代表理事がタクロバン市から感謝状と、被災したマングローブで制作したモニュメントを送られた。メンバー全員にも感謝状の授与があり、診療後の心地よい達成感の中、穏やかにセレモニーは終了した。

19:30より、レイテロータリークラブ会員の経営するイタリアンレストランにて夕食をとった。食事に先立つミーティングでは活動報告、個人の感想、反省、抱負、Dr 沢田による総括コメントがあり最後の夜を楽しんだ。



9月15日（月曜日）晴れ

5:00にホテル出発。連日我々の送迎を担当してくれた City Health of Tacloban の職員

は今日も時間通り迎えにきてくれた。マニラには台風が近づいているという情報もあり心配したが予定通りタクロバン空港を出発した。マニラでは時間的余裕は少なかったが、成田、名古屋組も無事に搭乗できた。関空組は19:00過ぎに到着し解散式を行った。『家に帰るまでがJDM!』を合い言葉にそれぞれが帰宅した。

最後になりますが、本活動を支援してくれたJDM支援者、NPO Visayas Response Teamの佐藤千咲氏、City Health of Tacloban、Barangay83, San Jose、フィリピン歯科医師会(PDA)の皆様はこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。

富田

データ

治療結果

	12日	13日	14日	合計
抜歯	249本	310本	375本	934本
CR	71本	117本	123本	311本
セメント	25本	49本	24本	98本
SC	49人	84人	78人	211人
TBI	10人	15人	10人	35人
クリーニング	5人	14人	10人	29人
人数	227人	299人	350人	876人

リーダー報告

今回のレイテミッションは、関空、名古屋、成田から参集しマニラで合流した14名の活動でした。

まず前泊の必要な行程で 預けの荷物の数量、重量も多く慣れないスタートでしたが、その疲れを吹き飛ばすかのようなお迎えと歓迎のレセプションにメンバー全員感激したようです。また、村長はじめ村民、歯科医師会関係者、警察、セキュリティ地域全体での歓迎と協力を驚きました。

活動内容は、上記報告書どおりでめざましい成果をあげられたことはメンバー全員の協力あってのことで感謝いたします。いつも通り、活動内容もさることながら 全員無事に帰国できたことを感謝しつつリーダー報告にかえさせていただきます。

上崎